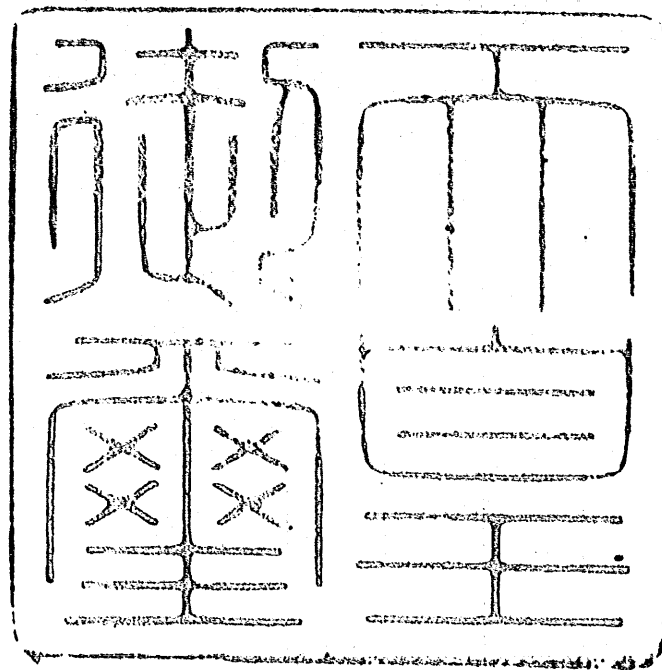


條約第四号

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ日本國及露西
亞國間ニ締結シタル日露通商航海條約
及同條約附屬別約ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

睦仁



明治四十年九月十一日

内閣總理大臣侯爵 西園寺公望
外務大臣子爵 林 董

條約第四號

日露通商航海條約

日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下
ハ兩國通商上ノ關係ヲ進捗セシムコ
トヲ希望シ、ホーヰマスニ於テ調印セラ
レタル講和條約第十二條ノ規定ニ基キ
公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシテ
一ノ通商航海條約ヲ締結スルコトニ決
シ之カ為日本國皇帝陛下ハ露西亞國駐
劄特命全權公使法學博士本野一郎ヲ全

露西亞國皇帝陛下ハ外務大臣「メートルド、
ラクル、アレキサンドル、イズヴオルスキー」商
工務大臣「マシブル、ヂュコセイユド、ランピール、
エキユイエー、ド、ラクル、ドミトリ、フィロゾフ、
オフ」及上院議員「メートルド、ラクル、ニコラ、
マレヴスキ、マレヴィツチ」各其ノ全權委
負ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其
ノ委任状ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認
メ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締約國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版
圖内ニ於テ其ノ國ノ法律ニ遵由シ何レ
ノ所ニ到リ旅行シ又ハ居住スルモ全ク
隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財産ニ
對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ
該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セム
カ為自由ニ且容易ニ裁判所ニ訴出ルコ
トヲ得ヘク又該裁判所ニ於テ其ノ權利
ヲ伸張シ及防護スルニ付内國臣民ト同
様ニ代言人、辯護人及代人ヲ撰擇シ且使

用スルコトヲ得ヘク而シテ右ノ外司法
取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ内國
臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享
有スヘシ
住居權旅行權及各種動産ノ所有遺言其
ノ他ノ方法ニ因ル動産ノ移轉及合法ニ
取得スル各種財産ノ處分ニ關シ兩締約
國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ
在リテ内國臣民又ハ最惠國ノ臣民若ハ
人民ト同様ノ特典自由及權利ヲ享有シ

且此等ノ事項ニ關シテハ内國臣民又ハ
最惠國ノ臣民若ハ人民ニ比シテ多額ノ
税金又ハ賦課金ヲ徴收セラルルコトナ
カルヘシ

兩締約國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版
圖内ニ於テ良心ニ關シ完全ナル自由ヲ
享有シ及法律命令及規則ニ從テ公私ノ
禮拜ヲ行フコトヲ得竝其ノ宗教上ノ慣
習ニ從ヒ埋葬又ハ火葬ノ為設置保存セ
ラルル適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬又

ハ火葬スルノ權利ヲ享有スヘシ
農業不動産ノ所有權並其ノ他何等ノ名
義ヲ以テスルヲ問ハス土地ノ保有ニ關
スル各般ノ事項ニ付テハ露西亞國ニ於
ケル日本國臣民及日本國ニ於ケル露西
亞國臣民ハ最惠國ノ臣民又ハ人民ト均
等ノ取扱ヲ受クヘキモノトス
何等ノ名義ヲ以テスルモ該臣民ヲシテ
内國臣民又ハ最惠國ノ臣民若ハ人民ノ
現ニ納付シ又ハ將來納付スヘキモノニ

異ルカ又ハ之ヨリ多額ノ賦課金又ハ租
税ヲ納付セシムルヲ得ス
兩締約國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方
ノ版圖内ニ住居スル者ハ陸軍海軍護國
軍民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免カ
レ且其ノ服役ノ代トシテ取立ル所ノ一
切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債及
軍事上ノ賦歛又ハ捐資ヲ免カルヘシ
前記ノ免除ハ不動産ノ所有ニ附着スル
所ノ賦課金及一般ノ内國臣民カ不動産

ノ所有者、小作人、賃借者又ハ保有者トシテ負擔スルコトアルヘキ軍事上ノ賦役及徵發ヲ包含セサルモノトス

第二條

兩締約國ノ間ニハ相互ニ通商航海ノ自由アルヘシ

兩締約國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内何レノ所ニ於テモ其ノ國ノ法律、命令及規則ニ遵守シテ總テ工業又ハ手工業ニ従事シ正業ニ属スル各種ノ生産物

製造品及貨物ノ卸賣又ハ小賣營業ニ従事スルヲ得ヘシ右營業ニ従事スルニハ自身ニ之ヲ為シ又ハ代理人ヲ以テシ或ハ一人ニテ之ヲ為シ又ハ外國人若ハ内國臣民ト組合ヲ結ビテ之ヲ為スモ隨意タルヘク又家屋、倉庫ヲ所有シ、之ヲ借受ケ又ハ占有シ且住居スル為又ハ職業ヲ營ム為ニ土地ヲ借受クルコトヲ得但シ内國臣民ト同様其ノ國ノ法律、警察規則及税關規則ヲ遵守スルヲ要ス

該臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ノ各地、諸港及諸河ニシテ外國通商ノ為ニ開カレ又ハ開カルヘキ場所ヘ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ到ルヲ得且通商及航海ニ關シテハ政府官吏、公吏、一私人、會社其ノ他何等ノ施設タルヲ問ハス其ノ名義ニ於テ又ハ其ノ利益ノ為ニ賦課スル税金又ハ取立金ハ其ノ性質又ハ名稱ノ如何ヲ論セス内國臣民ノ拂フ所ニ異ルカ又ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク内國臣民

ト同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス然レトモ本條及前條中ニ掲クル規定ハ兩國ノ一方ニ於テ現ニ行バレ又ハ行ハルルコトアルヘキ商業、工業、手工業、職業、所有權、警察、公安及衛生ニ關スル特別ノ法律、命令及規則ニシテ外國人一般ニ適用スヘキモノニハ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス

第三條

兩締約國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版

圖内ニ於テ住居、商業又ハ工業ノ為ニ供
スル家宅、倉庫、店舗及之ニ屬スル構造物
ハ侵スヘカラス
右家宅及構造物ヘハ猥ニ侵入搜索スヘ
カラス又帳簿、書類又ハ簿記帳ヲ検査點
閱スヘカラス但シ内國臣民ニ對シ法律
命令及規則ヲ以テ制定セル條件及定式
ニ據ルトキハ此ノ限ニ杜ラス

第四條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産又ハ製

造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリスルモ全
露西亞國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入シ又
全露西亞國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産又
ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリスル
モ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入スル
トキハ總テ他ノ各外國ノ生産又ハ製造
ニ係ル同種ノ物品ニ賦課スル税ニ異ル
カ又ハ之ヨリ多額ノ税ヲ賦課セラルル
コトナカルヘシ
兩締約國ノ一方ノ版圖内ニ他ノ各外國

ノ生産又ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁
止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ノ
生産又ハ製造ニ係ル同種ノ物品ハ何レ
ノ地ヨリ輸入セラルルモ之ヲ禁止スル
コトナカルヘシ此ノ規定ハ人類ノ安全
並農業ニ有用ナル家畜及植物ノ生存ヲ
保護スルニ必要ナル衛生上其ノ他ノ禁
止ニ適用スヘガラサルモノトス

第五條

兩締約國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方

ノ版圖内ヘ輸出スル一切ノ物品ニハ他
ノ各外國ヘ輸出スル同種物品ニ對シ賦
課シ又ハ賦課スヘキモノニ異ルカ又ハ
之ヨリ多額ノ税金又ハ賦課金ヲ賦課ス
ルコトナカルヘシ又兩締約國ノ一方ノ
版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ
輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ
版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲ
モ禁止セサルヘシ

第六條

兩締約國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版
圖内ニ於テ内地通過税保稅倉庫獎勵金
便益及戻税ニ關シ最惠國ノ臣民又ハ人
民ト全ク均等ノ取扱ヲ受クヘシ

第七條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ日本
國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ又ハ輸入
セラルヘキ物品ハ亦露西亞國ノ船舶ヲ
以テ同様ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコト
ヲ得此ノ場合ニ於テハ何等ノ名稱ヲ以

テスルヲ問ハス日本國船舶カ右様ノ物
品ヲ輸入スルトキ賦課スヘキモノニ異
ルカ又ハ之ヨリ多額ノ税金又ハ賦課金
ヲ賦課セサルヘシ又全露西亞國皇帝陛
下ノ版圖内ノ諸港ヘ露西亞國ノ船舶ヲ
以テ適法ニ輸入シ又ハ輸入セラルヘキ
物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同様ニ之
ヲ右諸港ヘ輸入スルコトヲ得此ノ場合
ニ於テハ何等ノ名稱ヲ以テスルヲ問ハ
ス露西亞國船舶カ右様ノ物品ヲ輸入ス

ルトキ賦課スヘキモノニ異ルカ又ハ之
ヨリ多額ノ税金又ハ賦課金ヲ賦課セサ
ルヘシ右相互對等ノ取扱ハ右物品ノ直
ニ原產地ヨリ到ルト其ノ他ノ場所ヨリ
到ルトヲ問ハス必ス之ヲ為スモノトス
輸出ニ關シテモ前項ノ場合ト同様全ク
均等ノ取扱ヲ為スヘシ故ニ締約國ノ一
方ヨリ適法ニ輸出シ又ハ輸出セラルヘ
キ物品ハ其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依ル
ト露西亞國船舶ニ依ルトニ拘ハラス又

其ノ仕向先ノ締約國ノ一港タルト第三
國ノ一港タルトヲ問ハス締約國ノ版圖
内ニ於テハ之ニ課スルニ同一ノ輸出税
ヲ以テシ又之ニ許スニ同一ノ獎勵金及
戻税ヲ以テスヘシ

第八條

政府官吏公吏一私人會社其ノ他ノ施設
ノ名義ニ於テ又ハ其ノ利益ノ為ニ賦課
スル噸税港税水先案内料燈臺税檢疫費
其ノ他之ト類似ノ取立金ハ其ノ性質及

名義ノ如何ニ拘ハラス同一ノ條件ヲ以テ且同様ノ場合ニ於テ内國船舶一般ニ課スルモノニ非サレハ兩締約國ノ一方ハ其ノ版圖内ノ港ニ於テ之ヲ他ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ兩國ノ船舶カ何レノ場所ヨリ來リ又何レノ場所ニ往クモノタリトモ相互同一タルヘキモノトス

第九條

兩締約國ノ一方ハ其ノ版圖内ノ港灣船

渠碇泊所又ハ河川ニ於テ船舶ノ繫留貨物ノ船積及船卸ニ關スル一切ノ事項ニ就キ他ノ一方ノ締約國ノ船舶カ均霑セサル特典ヲ自國ノ船舶ニ許與セサルヘシ兩締約國ノ意思ハ本件ニ關シテモ亦兩國ノ船舶ニ對シ互ニ全ク均等ノ取扱ヲ為スニ在ルモノトス

第十條

兩締約國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律命令及

規則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然
レトモ全露西亞國皇帝陛下ノ版圖内ニ
於ケル日本國臣民又ハ日本國皇帝陛下
ノ版圖内ニ於ケル露西亞國臣民ハ此ノ
事項ニ關シテハ各右法律命令及規則ヲ
以テ他ノ外國臣民又ハ人民ニ許與シ又
ハ許與セラルヘキ諸權利ヲ享有スルモ
ノトス

全露西亞國皇帝陛下ノ版圖内ノ二箇以
上ノ港ヘ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ

積載シタル日本國船舶及日本國皇帝陛
下ノ版圖内ノ二箇以上ノ港ヘ仕向ケタ
ル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル露西亞
國船舶ハ外國貿易ヲ許サレタル仕向港
ノ一ニ於テ其ノ積荷ノ一部ヲ陸揚シ而
シテ其ノ最初ニ積載シタル荷物ノ剩餘
ヲ陸揚スル為他ノ一港又ハ數港ヘ進航
スルコトヲ得ヘシ但シ常ニ兩國ノ法律
及稅關規則ニ從フヘキモノトス

第十一條

兩締約國ノ一方ノ軍艦又ハ商船ニシテ
暴風其ノ他ノ危難ニ遭遇シ避難ノ為已
ムヲ得ス他ノ一方ノ港ニ進入スルモノ
ハ内國船舶ノ拂フヘキモノノ外何等ノ
賦課金ヲ拂フコトナク其ノ港ニ於テ修
繕ヲ為シ一切ノ需用品ヲ求メ再ヒ航行
スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其
ノ費用ヲ支辨スル為其ノ積荷ノ一部ヲ
賣却スルヲ要スル場合ニハ該船長ハ其
ノ寄港地ノ規則及稅表ヲ遵守スヘキモ

ノトス

兩締約國ノ一方ノ軍艦又ハ商船ニシテ
他ノ一方ノ沿岸ニ於テ難破シ又ハ淺瀬
ニ乗上ケタルトキハ地方官ヨリ其ノ事
件ノ生シタル地方ニ駐在スル總領事領
事副領事又ハ代辦領事ヘ其ノ旨ヲ通知
スヘシ若其ノ地方ニ領事官在ラサルト
キハ最近地方ノ總領事領事副領事又ハ
代辦領事ヘ之ヲ通知スヘシ
全露西亞國皇帝陛下ノ領水ニテ難破シ

又ハ淺瀬ニ乗上ケタル日本國船舶ノ救
助ニ關スル一切ノ手續ハ露西亞國法律
命令及規則ニ從テ之ヲ為スヘク又相互
ノ主義ニ基キ日本國皇帝陛下ノ領水ニ
テ難破シ又ハ淺瀬ニ乗上ケタル露西亞
國船舶ニ關スル一切ノ救助處分ハ日本
國法律命令及規則ニ從テ之ヲ為スヘク
右ノ如ク難破シ又ハ淺瀬ニ乗上ケタル
船舶其ノ器具其ノ他一切ノ附屬品該船
舶ヨリ救上ケタル貨物及商品右等ノ諸

物件ニシテ海中ニ投棄セラレタルモノ
又ハ之ヲ賣却シタルトキハ其ノ收得金
並該遭難船内ニ發見セラレタル一切ノ
書類ハ右船舶ノ持主又ハ代理人ヨリ要
求スルトキハ之ニ引渡スヘク右持主又
ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ内國
法律ニ定メタル期間内ニ當該總領事領
事副領事又ハ代辦領事ヨリ請求アルハ
之ヲ引渡スヘク而シテ右領事官持主又
ハ代理人ハ内國船舶難破ノ場合ニ於テ

拂フヘキ物品保存費難破救助費其ノ他
ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス
難破船ヨリ救上ケタル貨物及商品ハ消
費ソ為ニ通關手續ヲ為スモノニ非サレ
ハ一切ノ關稅ヲ免除スヘシ但シ消費ノ
為ニ賣捌ク場合ニハ普通ノ關稅ヲ納ム
ルヲ要スルモノトス

兩締約國ノ一方ノ臣民ニ屬スル船舶ニ
シテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ難破シ又
ハ淺瀬ニ乗上ケタルトキ其ノ持主又ハ

船長其ノ他ノ代理人カ不在ノ場合又ハ
現場ニ在リテ之ヲ請求スル場合ニハ當
該總領事領事副領事又ハ代辦領事ハ其
ノ自國民ニ必要ナル補助ヲ與フル為干
與スルコトヲ許サルヘキモノトス

第十二條

本條約ノ目的ニ關シテハ日本國ノ國法
ニ從ヒ日本國船舶ト看做サルヘキ一切
ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト認メ又露西
亞國ノ國法ニ從ヒ露西亞國船舶ト看做

サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ露西亞國船
舶ト認ムヘシ
兩締約國ノ一方ヨリ交付シタル船舶積
量測度證書ハ追テ兩國間ニ協定スヘキ
特別ノ取扱ニ依リ他ノ一方ニ於テ之ヲ
承認スヘシ

第十三條

兩締約國ノ一方ニ屬スル軍艦又ハ商船
ノ乗組員ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於
テ脱船スル者アルニ際ニ右船舶所屬國

ノ領事又ハ其ノ代理官ヨリ其ノ逮捕引
渡ノコトヲ地方官ニ依頼スルトキハ該
地方官ハ其ノ權力ノ及フ限該脱船人ヲ
逮捕シ且之ヲ引渡ス為助力ヲ為スヲ要
スルモノトス
乗組員力其ノ各自ノ所屬國ニ於テ脱船
シタルトキハ此ノ規定ヲ適用セサルモ
ノトス

第十四條

兩締約國ハ其ノ一方ノ通商航海及工業

ヲ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ
置ク意志ヲ有スルニ因リ通商航海工業
及手工業ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其
ノ一方ヨリ他ノ各外國ノ政府船舶臣民
又ハ人民ニ既ニ許與シ又ハ將來許與ス
ヘキ一切ノ特典殊遇又ハ免除ハ他ノ一
方ノ政府船舶又ハ臣民ニモ即時ニ且條
件ヲ附セシテ之ヲ許與スヘキコトヲ
約ス

第十五條

兩締約國ノ一方ハ他ノ一方ノ港都府及
其ノ他ノ場所ニ總領事領事副領事及代
辦領事ヲ置クコトヲ得ヘシ但シ領事官
ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場所
ハ此ノ限ニ在ラス
然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シ
之ヲ適用スルニ非サレハ一方ノ締約國
ニ對シテ之ヲ適用スルヲ得サルモノト
ス

總領事領事副領事及代辦領事ハ相互ノ

條件ヲ以テ一切ノ職務ヲ執行シ且其ノ
駐在國ニ於テ最惠國ノ領事官ニ現ニ許
與シ又ハ將來許與セラルヘキ一切ノ特
典特權免除及職權ヲ享有スルコトヲ得
ヘシ
日本國政府ヨリ露西亞國ニ派遣スル外
交代表機關及正式領事館並之ニ附屬ス
ル諸官吏ハ新聞雜誌並學術技藝及文學
ノ著作物ノ檢閲ニ關シ相互ノ條件ヲ以
テ完全ナル自由ヲ享有スヘシ

第十六條

兩締約國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版
圖内ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履
行スルトキハ特許商標及意匠ニ關シ内
國臣民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ
兩締約國ハ成ルヘク速ニ工業及商業所
有權ノ保護ニ關シ相互條件ヲ基礎トシ
テ一ノ條約ヲ締結セムカ為商議ヲ開ク
コトヲ約ス

第十七條

本條約ハ批准交換後二箇月ヲ経テ實施
セラレ左ニ規定シタル方法ニ依リ終了
スル迄効力ヲ持續スヘシ
兩締約國ノ一方ハ明治四十三年七月十
七日即千九百十年七月四日(十七日)以後
ハ本條約ヲ終了セムコトヲ欲スル旨ヲ
他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ
而シテ此ノ通知ヲ為シタル後十二箇月
ヲ経過シタルトキハ本條約ハ全然消滅
ニ歸スヘキモノトス

第十八條

本條約ハ批准セララルヘシ而シテ其ノ批
准書ハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ
於テモ調印後四箇月以内ニ東京ニ於テ
交換セララルヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本條約ニ
記名調印スルモノナリ

明治四十年七月二十八日即千九百七年
七月十五日(二十八日)聖彼得堡ニ於テ之
ヲ作ル

本野一郎印
イズヴォルスキー印
ド、フィロゾフ、オフ印
エス、マレヴスキー、マレヴィッチ印

別約

左記ノ留保ハ外國トノ貿易及關係ニ一
般ニ適用セラルル規定ト毫モ關係ヲ有
セサル例外ノモノナルニ因リ本條約ニ
抵触セサルモノト看做ス但シ如何ナル
場合ニ於テモ左記諸例外ノ為ノ外ハ本
條約ニ定メタル内國臣民待遇及最惠國
臣民待遇ノ原則ニ反シテ之ヲ引用スル
コト能ハサルモノト知ルヘシ

日本國ノ方ニ於テ

第一條 日本國ト韓國トノ間ニ於ケル
通商工業及航海ニ關スル特別關係ノ
規定

第二條 日本國トマラッカ海峽以東ニ於
テ日本國ニ隣接セル東亞細亞諸國ト
ノ通商ニ關スル規定

第三條 日本國政府カ留保スルコトア
ルヘキ各種ノ物品ニ關スル專賣權
露西亞國ノ方ニ於テ

第一條 幅員五拾「ヴエル」ストニ達スル國

境地帶内ノ地方貿易ヲ容易ナラシム
ル爲ニ接境諸國ニ現ニ許與シ又ハ將
來許與スルコトアルヘキ殊遇

第二條 輸入又ハ輸出ニ關シアルカニ
シテ洲ノ住民及亞細亞露西亞國ノ北部
沿岸(西比利亞)ニ現ニ許與シ又ハ將來
許與スルコトアルヘキ殊遇

第三條 千八百三十八年四月二十六日露西
亞國ト瑞典國及諾威國トノ間ニ締結
シタル條約中ニ包含セラレタル特別

條款

第四條 露西亞國ト其ノ亞細亞ニ於ケ

ル接境諸國トノ商業ニ關スル規定

第五條 露西亞國ニ於テ建造シ且露西

亞國臣民ニ屬スル船舶ニ與ヘラルル

建造後三箇年間航海税ノ免除

第六條 露西亞國ニ於テ遊船俱樂部ト

稱スル各種娛遊協會ニ許與シタル免

除

第七條 露西亞國政府力留保スルコト

アルヘキ各種ノ物品ニ關スル專賣權

本別約ハ本日締結シタル條約中ニ其ノ

全文ヲ記入シタルト同一ノ効力ヲ有ス

ヘシ又本別約ハ之ヲ批准シ其ノ批准書

ハ該條約ノ批准書ト同時ニ之ヲ交換ス

ヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本別約ニ

記名調印スルモノナリ

明治四十年七月二十八日即千九百七年

七月十五日(二十八日)聖彼得堡ニ於テ之

ヲ作ル

本野一郎印

イズヴォルスキー印

ド、アイロゾフOFF印

エヌ、マレグスキー、マレヴィッチ印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル
日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕明治四十年七月二十八日露西亞國聖
彼得堡ニ於テ帝國全權委員カ露西亞國
全權委員ト共ニ記名調印シタル日露通
商航海條約及同條約附屬別約ヲ閱覽點
檢シ之ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百六十七年明
治四十年九月九日東京宮城ニ於テ親ヲ

名ヲ署シ璽ヲ鈴セシム

御名國璽

外務大臣子爵林董